

## 1 施設の役割・使命・目的に関する意見

## 施設のコンセプト・ミッションの決定

## A 施設の役割・使命・目的の明確化（見直し対象の確認）

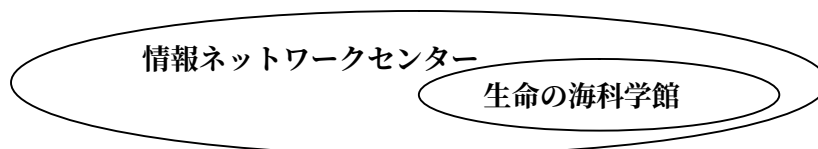
## ① 科学館と情報推進施設との関連に関する意見

- ・センターと科学館とは、役割が違うので評価は別々にした方が良いのではないか。センターと科学館を無理に関連づけなければいけないのか。

## ② 観光施設と情報推進施設との関連に関する意見

- ・観光と情報は必ずしも結びつかないところがある。観光客はあるとき来て、グルッと館内を見て帰るという人だが、情報の方はもう少し息が長くて、啓蒙もあったり、繰り返ししたりということがある。この2つを分けて役割をどうするかということを議論した方が良い。

生命の海科学館は、情報ネットワークセンターにおける情報推進のための情報機器を利用した科学館という位置づけがあった。



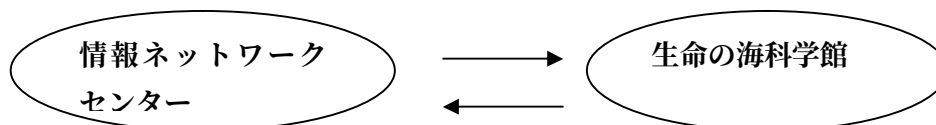
今後の運営において、科学館をどのように位置づけするか。

## 1. センターの位置づけに変更がないことの確認

センターのコンセプト、ミッションには変更がない（施設配置、運営方法等は協議対象とするが、目的・役割はこれまでどおりということを確認。

## 2. 科学館のコンセプト、ミッションについての検討

科学館の位置づけをどのようにするのか。これまでどおりの位置づけ（上図）か、独立したものとして相互連携（下図）を考えていくのか。



⇒科学館に独立性を持たせないと、そのコンセプト、ミッションが曖昧となるおそれがある。

## B 科学館の役割・使命・目的の明確化

### ① 教育分野での活用に関する意見

- ・教育に使っていくのか、あるいは観光に使っていくのかによってステップがまた違ってくる。その辺を検討してもらいたい。
- ・科学館としては教育関係の方が中心となっていかなくは、これから発展していかないし、衰退していく、そういう方向になると思う。
- ・教育に使うとなれば、観光とかそういうことにはあまりメリットが出ないかもしれない。
- ・教育に使うとなれば、今度は蒲郡の子供の教育なのか、あるいは生涯教育なのか、あるいは文化協会なのか。
- ・科学館全体としてももう少し子どもの夢を育むというか、蒲郡にしかない施設としていきたい。

科学館のターゲットは、誰なのか。科学館をどう使うのか。

広く一般か、市民に的を絞るのか。

⇒科学館としての機能を有していれば、教育と観光が相反するということはなく、相互に連携することは可能である。

⇒市民（学校）の学習発表、作品展示的（市民ギャラリー）な要素を前面に出せば、内容によっては関係者以外（観光客含）からの魅力は減少する可能性がある。

科学館で、誰のために何がしたいのかを明確にすること＝コンセプト・ミッション

## 2 運営方法に関する意見

### 最適な運営方法の検討

#### ① センターと科学館の配置等に関する意見

- ・1階を含めた用途変更が必要
- ・上は科学館として、下に集客力のある施設を作って客を引っ張り込む方法と、全体を科学館として考えて、1階部分をそれなりのふさわしい科学館として利用するという2つの考えがある。
- ・1階部分も有料施設とすることで3階の受付職員を減らすことができるが、展示物の配置換えまで行なうと相当の経費が必要となる。
- ・科学館部分と1階部分があまり異質的なものと科学館が死んでしまう。科学館ということで全体的にアピールしていった方がよい

② 施設の名称に関する意見

- ・「生命の海科学館」は、読み方（「せいめい」、「いのち」）が分からないし、何をやっているのかわかりにくい。

③ 地域参加型・コミュニティ施設に関する意見

- ・地元の方に参画していただいて、いろいろ意見交換をしてもらい、教育関係を含めて地元の理解をしっかりと得ていく。
- ・蒲郡は地方都市であり、都会にある集客力がある科学館と違うので、呼び込むことが非常に大切になってくる。だから、子ども会、学校、地域の方々、観光業者を通じたあらゆる面から引っ張り込まないと相当に難しい。
- ・市内の先生を含めた運営委員会を設けて、小中学校の子供たちも巻き込んでいくことはできないか。

④ 入場料金の見直しに関する意見

- ・市外の人に関しては 700 円であるのに市民には無料、市民からも少しでも負担していただけないのか。
- ・入場料をもっと下げてどんどん見てもらってはどうか。

⑤ 他の施設や大学との連携に関する意見

- ・大学の連携などにより魅力作りをどうやっていくか、それが非常に重要だと思う。
- ・1階部分がある程度家賃収入を得るところができる場所に貸して、科学館を活かしながらいく。
- ・施設の大規模改修はおそらく難しい中では、いかに魅力的なイベントをやっていくかが最大のテーマになる。
- ・海辺の文学記念館や水族館と連携してやっていくことは当然可能だ。単独で考えてしまうよりも、連携を考えた方が良い。

### 3 運営体制に関する意見

#### **最適な運営手法の選択**

① 指定管理者制度・民間活力の導入に関する意見

- ・高山市の図書館は、指定管理で運営し、ベビーセンターや生涯センターまで造っている。図書館の営業時間は9時半から9時半まで、こういう発想がもっとないと。
- ・海辺の5館のように駅を玄関口として歩いて見学が出来るところはひとつも欠かし

たくない。これを全部ならどこかの民間の会社が運営するのではないかと思う。

② 人事に関する意見

- ・新しく館長を採用して、新鮮なアイデアを生かして、新しい科学館、イメージチェンジした科学館にしてみたらどうか。

③ 学芸員の補充に関する意見

- ・学芸員の補充についてどうするのか。充実するにはきちんとした形での補充になるのか、その辺も考えていかないといけない。

#### 4 評価方法等に関する意見

##### 運営評価をどのように行っていくか

① 定量化・説明責任に関する意見

- ・施設がどういうふうに市民に役に立っているかということを定量化する方法は無いのか。定量化できれば役に立っている施設だという評価ができるのではないか。
- ・定量化し目に見えるようにしないと、いろいろやってもゼロに見えてしまう。
- ・赤字の理由を経営者として説明する責任がある。公共サービスだから赤字でも良いというのは理解されない。

② 報告後の管理方法に関する意見

- ・市長に報告書を提出するだけで終わるのではなく、定期的に見守るというかたちで、この委員会が継続して市から状況を報告していただくとかしていけたら良いと思う。

#### 5 その他の見直しに関する意見

① 赤字と入館者数の減少・営業活動・利益の追求に関する意見

- ・どちらかという経費削減を中心に運営してきた。財政が厳しいので赤字幅を少なくすることはOKだと思うが、ただ魅力がその分減ってきている。その結果が入館者数の減少という形で表れているのではないか。
- ・営業努力を考えずに、経費節減や人件費を削るから、サービスが悪くなり入場者が減る。営業収入を増やすには、利用者が利用しやすいような営業時間を考えるとか、コンビニ等に入場券の販売をお願いするとか手立てはある。営業努力をせずに費用節減して生き残った企業はない。
- ・行政サービスというのは赤字でもいいというわけではない、もう少し経営感覚とい

うか、利益を上げるためにどうするのかを考えないと、市民のコンセンサスが得られないと思う。

- ・ 存続ということは、イコール赤字ということを担っていくというである。市民の理解、あるいは関係各位の努力が必要だと思う。展示の見直しとか施設の在り方、赤字の縮小、人件費の削減等、具体的にしていかなないと市民はなかなか納得しない。
- ・ 赤字の話ばかり出るが、市民は無料である。収入もないのに赤字が消えるわけがない。いくら市民が入ってくれて賑やかにはなっても、お金は一銭も入らない。

② 入り口・外観・展示室など施設改修に関する意見（２①に関連）

- ・ あまりにも入りにくい施設だなと感じるので、科学館自体の外観も含めて、もう少し明るい外観にする
- ・ 最初に施設に入ったとき、どこが科学館なのか全然分からなかった。まず、科学館の入り口はここだというものをもっとはっきりした方が良い。
- ・ 狭いところに押し込めたような展示の仕方、暗い展示室、広い３階をもっと上手に利用して、子供や観光客に「良いじゃないか」と思われる展示の仕方をしたらどうか。

③ 東港など他の計画との整合に関する意見

- ・ 観光としては、竹島があって、水族館があって、博物館があって、駅前があって、東港があってということでトータル的にどうしていくかということ

④ その他

- ・ 中で働く職員や来館された人の声などを聞き不都合な点を改善してもらいたい。